



# 大森六中だより

令和6年 1月号  
大田区立大森第六中学校  
統括校長 菅野 哲郎  
TEL 3726-7155

六中だよりはHPからも  
ご覧いただけます。



## 減災への取組

新しい年を迎えて、おめでとうございますと申し上げたいところですが、元旦から大きな災害が発生し、多くの人命が失われ、また、非日常を過ごしている多くの方々を想うと、祝辞がはばかられる年明けとなりました。

今回の能登半島沖地震では、5mを超える津波の被害とともに、建物の倒壊とその後発生した火災により多くの尊い人命が失われました。連日の報道でも倒壊した家屋の映像が流れています。

1月11日現在の死者は206人で、そのうち、震源に近い珠洲市は91人、輪島市は83人で、併せて84%を占めています。

過去に大きな地震に見舞われる度に住宅の耐震基準は見直されてきました。そして最新の耐震基準で耐震対応率を見たときに、平成30年の総務省統計局による「住宅・土地統計調査」では、全国平均が69.7%に対し石川県は63.4%。その中で前述の珠洲市は31.4%、輪島市は40.7%と、能登町の32.8%に次いで低い数字となっています。

今回の地震被害を受けて、耐震診断の申し込みが全国的に増えているそうです。大田区の状況を見てみると、令和4年3月にまとめられた大田区耐震改修促進計画では、令和2年度現在、耐震対応率は木造81.2%、非木造95.0%とな

っています。

耐震診断に要する費用や耐震改修工事費用を助成する自治体が多くあります。大田区でも、区内にある昭和56年5月31日以前に新築の工事に着手した木造建築物は助成の対象となります。詳しくは大田区のホームページからダウンロードできる「耐震化助成事業パンフレット」をご覧ください。

国連開発計画（UNDP）「世界報告書：災害リスクの軽減に向けて」（2004年8月）によると、マグニチュード5.5以上の地震の頻度（1980年から2000年にかけての20年間の年平均回数）を見ると、日本は年1.14回であり、中国の2.1回、インドネシアの1.62回、イランの1.43回に次ぐ、世界第4位の地震大国です。地震の発生が避けられないなら、発災後の被害を最小限にする減災の取組は不可欠です。

また、建物の被害を防げても、家具の倒壊で死亡したり負傷したりするケースもあります。器具による家具類の転倒・落下・移動防止対策を行うことが重要です。さらに、発災後に屋外に避難する場合は、通電火災を防止するためにブレーカーを落とすことも重要です。感震ブレーカーを設置すれば、慌てて避難する場合も安心です。

被災地への支援とともに、自身の減災意識も高めたいものです。

# 持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

## 令和6年のスタートは

元旦早々、悲しい出来事が起こり、怒濤の1年の幕開けとなりました。午後4時10分地震速報の合図で東京にいた私は、「えっどこで？」とまず声を上げるや、むくむくと長周期振動による揺れ方が起き、テレビの民放番組すべてがニュースに切り替わり、ことの重大さを感じました。

日本海側には無数の活断層が走り、北陸全般に被害が広がっています。さらに、ここ数日の天候が低温と降雪でさらに避難所生活を強いられている方々の健康面が懸念されている状況です。

3年生と農援隊を中心に、募金活動を行う予定です。ご協力お願いします。

本校の良いところは、困っている人の手助けをしたいと、ボランティアに立ち上がる生徒が多いところです。が、今回報道番組を見ていて気になったのは、すぐに現地へ駆けつけ手伝いという人へ、ちょっと待つてほしいという呼びかけがありました。寒い状況で食糧不足、ライフラインのストップで日常生活を送ることが困難な状況で、ボランティアの方が行って食料の心配や通信の妨げが起きうることです。場所によっては人手がほしいところもあれば、自分たちの食料を確保するだけでも大変なところもあることをしっかりと考えなければいけないということを知りました。

シビック・アクションでお世話になっている東京都市大学准教授の森先生によると、災害が起ると産業廃棄物をどう処理していくかの問題が

あり、現地に入って調査をしなければならないそうですが、そこに至るまで3年くらい掛かるそうです。まずは、消防、救急、その後現地調査のための研究者が入り、復興のための情報の整理・分析がなされるそうです。東日本大震災の時も、調査に入ることができたのが2、3年後で、今回の地震もそのくらいの時間は掛かるだろうとおっしゃっていました。

これだけ通信網が充実している世の中になっても、地震が起きてから1分後に津波が来たところもあったということは、避難することは困難だった地域があったということです。100名以上の死者と200名以上の不明者を出した今回の地震は、自然の脅威にあがることができないことを改めて感じる今年の元旦でした。

ただ、自然災害を防ぐことはできずとも、災害が起きた後の減災対策、避難所運営など、日頃からの訓練で対策を練ることはできると感じます。今回の地震で新潟航空基地に物資を輸送するための海上保安庁の航空機が JAL 旅客機と衝突し、JAL 516 便の乗客・乗員全員が無事脱出したことは、世界的にも奇跡的なことと賞賛され、日頃の訓練がとても大切であることが改めて評価されています。ただ、海上保安庁の乗員の方々は本当に痛ましい結果になってしまいました。

今年の最初のニュースがあまりにもショッキングな内容で始まりましたが、日本全国で復興に向けてできることを行っていくことが、今自分たちにできることです。

# 小中一貫教育の会

1、2年生の代表者は赤松小学校・小池小学校・清水窪小学校へ行き、職業調べや職場体験のまとめを発表しました。また六中の校内では1年生の数学（正多面体の仕組み）・道徳（つながりが生み出す力）、2年生の美術（手鞠の鑑賞会）の授業を小学校の先生方に見ていただきました。小学校で作ってもらった正多面体を今回の授業で活用する場面もみられました。



# 1年 まちなか点検

自治会ごとに分かれ、実際に歩きながら地域の防災について考えました。AEDや消火器、防火水槽、危険な場所などを地図に書き込み、いつでも見ることができるよう廊下に掲示しています。



# 書初め展示

各学年の廊下に冬休み中に書いた書初めを展示しています。金賞の作品は大田区立中学校書初展へ出展されます。

